

被害民家敷地過去に被弾

金武伊芸 1966年米軍照明弾

【金武】金武町伊芸区の民家で銃弾らしき物が見つかった問題で、過去にも同じ敷地内の建物で米軍の照明弾が屋根を貫通していたことが分かった。この民家

の半径約50メートル以内では1956年以降、住宅などへの被弾が7件で被害が集中していることも判明。米軍は「伊芸区と米軍基地」による被害の多くで訓練との因果関係を確認していない。今回

も流弾の可能性を事実上否定している。(25面に関連) 同区がまとめた記録集

「伊芸区と米軍基地」による照明弾の弾頭約10発が住宅の屋根を貫通した。この民家から半径約50

米軍は「訓練とは直接的な関連がない」と結論付けた。同様の関与を否定した。同区の安富祖穂区長は「認めると使用できなくなるからではないか。これまでと同じ言い分だ。明らかに米軍以外、考えられない」と批判した。(北部報道部・玉城日向子、西倉悟朗)



66年には米軍が打ち上げた照明弾の弾頭約10発が住宅の屋根を貫通した。この民家から半径約50

米軍は「訓練とは直接的な関連がない」と結論付けた。同様の関与を否定した。同区の安富祖穂区長は「認めると使用できなくなるからではないか。これまでと同じ言い分だ。明らかに米軍以外、考えられない」と批判した。(北部報道部・玉城日向子、西倉悟朗)

以内の住宅など計7件の被弾があり、住民男性(59)は米軍の訓練による可能性を念頭に「銃口を集落に向けてないでほしい。怖い」と話す。過去の被害は知らなかった。区内の別の場所でも半径約100メートル以内で7件の被弾が確認されている。

88年に民家などに銃弾が直撃した際、米軍は「レンジ6」での実弾射撃訓練で使用された物だと特定し「隊員が不用意に撃った弾が伊芸の方向へ飛んだ」と

認めた。その後、同レンジの実弾射撃は廃止した。だが2008年に車体から銃弾が見つかった時、県警は米軍の弾芯と鑑定したが米軍は「訓練とは直接的な関連がない」と結論付けた。同様の関与を否定した。同区の安富祖穂区長は「認めると使用できなくなるからではないか。これまでと同じ言い分だ。明らかに米軍以外、考えられない」と批判した。(北部報道部・玉城日向子、西倉悟朗)

2022年10月27日
衆議院安全保障委員会
配布資料
日本共産党 赤嶺政賢

出典:沖縄タイムス
(2022年7月10日)